

# 金融・経済 おもしろ豆知識

古今東西、昔から伝えられているおとぎ話から現代の映画やマンガまで、お金や経済にまつわる物語は数え切れないほどたくさんあります。今回は「休さんや吉四六さん」とも有名な彦一のとんち話から、算術を使ったお話をご紹介します。

## 第8回

複利に強くなろう

# 「彦一と殿さまのぐい褒美」 彦一とんち話より

「彦一とんち話」は、肥後の国熊本藩八代地方の民話です。主人公の彦一は、八代城下の長屋に住む妻子ある働き盛りの善人として描かれることが多いですが、実在の人物かどうかははっきりしていません。しかし、この彦一、無字ながらも知恵や才覚を武器に、狐と化け比べをしたり、天狗さまと知恵比べをしたり。あるときは殿さまをとんちでやりこめ、自らの窮地もとんちで切り抜ける…など、多くの愉快なお話が残っています。

ある日のことです。お城に勤めに出た彦一の働きぶりに殿さまが「ほうびを取らせるから欲しいもの言ってみよ」と声をかけると、彦一は「殿さまは将棋がお好きなので、将棋盤のマスに今日は米1粒、明日は倍の2粒、明後日はまた倍の4粒…と二つ二つに倍々の

お米をください」と頼みます。殿さまは、「そんな小さな望みでいいのか」と彦一の願いをかなえようとします。

しかし改めて計算してみると…将棋盤は9×9の81マス。10日目の将棋盤の目には512粒、20日目には52万4288粒、30日目には5億3687万0912粒…と米粒の数がどんどん膨れ上がり、81日目にはなんと、およそ1兆粒の1兆倍という天文学的な数字となってしまう。ささやかな褒美とたかをくくっていた殿さまは、実は途方もない米を褒美とする約束をしてしまったのです。この「明日は今日の倍…」という約束をお金の貸借になぞらえてみると、1円を「日利100%」の複利で借りて返済することと同じです。複利とは、「利子にもまた利子がつく」とい



です。金利が高いほど、また期間が長いほど、借金は急激に増えていきます。「日利100%」は閻金融の代名詞である「タイチ（10日で1割）」を上回るまったくの暴利ですが、仮に「年利15%」で100万円を借りた場合でも、途中で一部返済がなければ、5年程度で返済額は2倍の200万円になってしまいます。

この話は、最初は小さくとも、今日増えた分も含めて明日倍になるという格好で膨らんでいく米の量のすさまじさに肝をつぶした殿さまが彦一に詫言、あらためて彦一の知恵に感心することになりす。

もちろん、これは殿さまだから許されること。お金を借りる場合には、「金利の怖さ」を十分に理解して、きちんと返済できるかを考えることが重要ですよ。